

豚丹毒（とんたんどく）

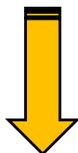
豚丹毒とは、**豚丹毒菌（Erysipelothrix rhusiopathiae）**が感染することによって起こる病気で、下記のような症状がみられます。と畜検査では**と殺禁止**もしくは**全部廃棄**の対象です。

- ① 敗血症型（高熱が出て、突然死を起こします）
- ② 蕁麻疹型（皮膚に特徴的な病変がみられます）
- ③ 心内膜炎型（心臓の弁に細菌のかたまりができます）
- ④ 関節炎型（主に四肢の関節が腫れて、歩行障害を起こします）

※当と畜場に搬入された蕁麻疹型豚丹毒の豚

生体検査

皮膚に淡赤色～赤色のもりあがった菱形あるいは四角形の特徴的な病変（菱形疹）を認めるもの



と殺禁止



耳や鼻、背部、臀部に菱形疹が多発

解体後検査

生体検査で明らかな病変が確認されず、解体後に敗血症型、蕁麻疹型、心内膜炎型、関節炎型のいずれかの症状がみられたもの



細菌検査を実施

細菌検査の結果、豚丹毒菌が検出！



全部廃棄

枝肉の胸背部に赤く盛り上がった菱形疹が見られます



豚丹毒は、**ワクチンによる予防**や**ペニシリン系抗生物質による治療**が有効ですが、**ストレスが発生要因になることもある**ので、**輸送方法や飼養環境に注意する必要があります**。**日ごろから飼養管理、衛生管理をしっかりと行うことが大切**です。

